

農作物技術情報 第7号 野菜

発行日 令和7年9月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 台風対策 排水対策と施設の保守点検を万全にしましょう。
- ◆ 果菜類（施設） トマトでは保温などによる裂果防止、早朝換気によるゴーストスポットの発生防止、トマトキバガ対策の徹底に努めましょう。
- ◆ 果菜類（露地） キュウリホモブシス根腐病など重要病害の発生状況の確認（残さ診断）や振返りを行い、次年度へ向けた対策を検討しましょう。
- ◆ 葉茎菜類 雨よけほうれんそうは適切な温度管理と病害虫防除を徹底しましょう。
- ◆ 冬春野菜 寒じめほうれんそうは大雪への備えを万全にし、適期は種と適切な温度管理を徹底しましょう。促成アスパラガスは低温遭遇時間を目安にして根株の掘り取り時期を決めましょう。

1 生育概況

(1) 果菜類（施設）

- ・ きゅうり早熟長期作型は収穫終盤です。抑制作型の生育はおおむね順調です。病害虫では、ハダニ類、ウリノメイガ、オオタバコガが発生しています。
- ・ トマトは、雨よけ栽培の摘心が行われています。高温による花落ち段位が収穫期になっているため、収穫量は減少傾向です。病害虫では、葉かび病、すすかび病やコナジラミ類、オオタバコガ、トマトキバガの発生がみられます。
- ・ ピーマンの生育は、尻腐れ果の発生は減少しましたが、赤果の発生がみられています。病害虫では、斑点病やアブラムシ類、アザミウマ類、タバコガ類の発生が継続しています。

(2) 果菜類（露地）

- ・ きゅうりは、草勢低下により曲がり果などがみられています。病害虫では、べと病、炭疽病、褐斑病やウリノメイガ、オオタバコガが発生しています。
- ・ ピーマンの生育は、尻腐れ果は減少しましたが、ひび果、肥大遅れによる赤果の発生が多いです。病害虫では、斑点病、斑点細菌病、タバコガ類の発生が継続しています。

(3) 葉茎菜類

- ・ 雨よけほうれんそうの生育は、おおむね順調です。病害虫では、萎凋病、シロオビノメイガの発生がみられます。
- ・ 高冷地キャベツは降雨により生育が進み、複数作型の収穫時期となっており、高冷地レタスは一部で強雨の影響により葉の裂けや外葉の腐敗がみられます。病害虫では、キャベツではべと病、軟腐病、株腐病や黒斑病、アザミウマ類、オオタバコガ、レタスでは腐敗病や軟腐病、褐斑病、オオタバコガの発生がみられます。
- ・ ねぎの収穫作業はおおむね順調に進んでいます。病害虫では、軟腐病、黒斑病、葉枯病、アザミウマ類、ハモグリバエ類の発生がみられます。

2 技術対策

(1) 台風対策

例年 10 月は台風の発生が多い時期になります。気象情報を確認し、状況に応じて排水対策、施設の保守点検など、事前事後の対策を徹底してください。具体的な技術対策は以下のとおりです。

- ・ ほ場周囲の明きよの点検と排水口への接続状況を確認し、スムーズな排水に努めます。
- ・ ハウスバンドの締め直しやハウスピールの破れ部分の補修を行います。
- ・ 収穫可能な果実は、台風前に収穫するようにします。
- ・ 被害後は、被害茎葉や被害果を除去し、予防的に防除を行います。

(2) 果菜類（施設）の管理

ア きゅうり

- ・ 早熟作型では、生育が終盤となるため生育状況や収穫終了時期に応じた管理を行います。
- ・ 抑制作型では、日照時間が短くなるとともに気温の低下に伴う結露などにより病害の発生が懸念されることから、ハウスを閉める時間が長くないよう注意します。

側枝は、2～3 節で摘芯し、枝数や葉数を確保します（写真 1）。



写真 1 抑制きゅうりの整枝管理（例）

イ トマト

これからの時期は、既に着果している果実を確実に出荷に結び付けるために、裂果や病害の発生を防ぐことが重要です。

また、トマトキバガの発生が増加しているため対策を徹底してください。

- ・ 温度管理は、急激な気温の低下及び 14℃以下にならないよう夜間の保温を行います。
- ・ かん水は、早朝の開始時間を遅らせます。気温や生育量に応じたかん水量の調整を行って根域の水分過剰を防ぎ、急激な吸水による裂果を防ぎます。
- ・ 湿度管理は、外気と施設内の気温差が無くなるように早朝にハウスサイドを開放し、果実表面への結露を防止します。果実表面の結露は、ゴーストスポットや裂果の発生を助長します。
- ・ 病害では、葉かび病や灰色かび病が発生しやすくなるので、防除を徹底してください。
- ・ トマトキバガ対策は、令和 7 年 8 月 29 日発行（岩手県病害虫防除所）の令和 7 年度農作物病害虫発生速報（No. 14）を参考に、発生が疑われる場合は、最寄りの普及センターへ連絡し、発生種の確認を行い、耕種的防除や農薬散布による効果的な対策を実施してください。

ウ ピーマン

気温の低下とともに、果実の肥大が緩慢となりますので、夜間の保温による生育温度の確保に努めてください。

- ・ 最低気温が 16℃以下にならないよう夜間の保温を行います。
- ・ 出荷規格に適さない果実は、早めに摘除し、収穫果の肥大を促します。
- ・ 湿度上昇による病害発生を低減するために、日中は少しでも換気を行いハウス内の空気を動かしします。
- ・ 防除は、斑点病、灰色かび病、タバコガ類を中心に行います。

(3) 果菜類（露地）の管理

ア きゅうり

草勢の維持と病害虫対策の徹底により収穫期間の延長を図ります。

- ・ 強い摘芯は控え、アーチから飛び出した弱い芯を指先で摘む程度に行います。

- ・ 摘葉は病葉・古葉・黄化葉などを中心に行い、追肥は、栽培終了時期を見越して行います。
- ・ 防除は、農薬の使用回数（成分の総使用回数を含む）に注意し、薬剤を選択してください。
- ・ 収穫残さに付着している病原菌は、翌年の発生源となるので、栽培終了後は速やかにほ場外へ持ち出し、できる限りほ場に残さないように片付け、次年度に向け資材消毒を実施してください。
- ・ 栽培終了後、根をそのままにすると、キュウリホモプシス根腐病が増える可能性があるため、きゅうりの根は速やかに抜き取り、キュウリホモプシス根腐病（写真2）の発生の有無を確認してください。
- ・ 疑わしい症状が見られた場合や、次年度の作付けに不安がある場合は、最寄りの農業改良普及センターなどに連絡し、残さ診断を受けてください。



写真2 ホモプシス根腐病による根の状態
（左上：200倍に拡大 右：黒変症状）

イ ピーマン

この時期は、病害や腐敗果、赤果の発生が増加するおそれがあるので、防除や果実の選別を徹底してください。

- ・ 斑点病、斑点細菌病の防除を中心として、降雨前後に薬剤散布を行い、発生低減を図ります。
- ・ 腐敗の原因になるため、被害果（タバコガ類など）や傷果の選別を徹底します。
- ・ 赤果の混入防止のため、果実の色をしっかりと確認します（写真3）。
- ・ 果実表面に水分がないよう、出荷時の果実は乾いた状態とします。



写真3 市場での赤果の混入状況

(4) 葉茎菜類の管理

ア 雨よけほうれんそう

- ・ 年内収穫に向け、もう1作は種することを検討します。低温伸長性の良い品種を選択し、ハウスのこまめな開閉などによる温度管理を適切に行います。
- ・ ハウスを閉める時間が長くなると、べと病の発生が多くなります。べと病抵抗性品種であっても、日中は換気に努めるとともに、予防防除を行ってください。
- ・ ホウレンソウケナガコナダニの被害が多くなる時期です。今年被害があったほ場では、土壌処理剤と茎葉散布剤を併用します。茎葉散布剤は薬液が芯葉まで届くように丁寧に散布してください。
- ・ シロオビノメイガの発生がみられます。幼虫は、初め芯葉の隙間に入り込んで見つけにくいので、注意して観察し、防除が遅れないようにしてください（写真4）。



写真4 シロオビノメイガによる食害

イ キャベツ・レタス

- ・ 県北高冷地の収穫は終盤です。病害により収穫できなかった株、使い終わったマルチを適切に処理します。

ウ ネギ

台風などの降雨によりほ場作業が出来ない日も多くなるため、ゆとりのある作業計画により適期収穫に努めてください。

- ・ 10月収穫の最終培土は、収穫の30日前を目安に、軟白部の伸長肥大を確認しながら行います。
- ・ 薬剤防除は、例年の防除体系に加え、今年発生が多い黒斑病、葉枯病も考慮して行います。また、農薬散布は収穫前日数に注意して適正に行います。
- ・ 次年度に向け、収穫終了ほ場から土壌診断や堆肥の施用を行います。

(5) 冬春野菜の管理

ア 寒じめほうれんそう

- ・ 冬期間の大雪によるパイプハウスの倒壊を防止するため、寒じめほうれんそうを作付けするハウスは補強用支柱や筋交いを設置するなどの補強対策を講じます。また、作付けするハウスは1棟おきにして、作付けしないハウスはビニールを外し、除雪しやすい環境を整えます。
- ・ ハウス栽培では9月下旬～10月中旬がは種時期です。地域により気象条件が異なるので、品種特性に合わせて適期には種します。
- ・ は種後の温度管理は、過剰に保温すると生育が進みすぎ、温度が低すぎると生育が大幅に遅れます。本県の寒じめほうれんそうの収穫期間は12月～翌年2月となるので、生育ステージに応じた適切な温度管理を行ってください。

イ 促成アスパラガス

- ・ 気温の低下とともに、地下部への養分転流が進む時期です。台風による倒伏などで、茎葉が傷まないよう管理します。
- ・ 根株の極端な早掘りは伏せ込み後の収量低下につながるので、低温遭遇時間（5℃以下の積算遭遇時間90時間以上）を目安に、掘り取り時期を決定します。

次号は10月30日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**忘れずに！点検・確認・安全管理
無事故で終える収穫作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。